<table>
<tr><td>授業科目名</td><td colspan="3">裁判法</td></tr>
<tr><td>担当者名</td><td colspan="3">前田裕司</td></tr>
<tr><td>開講年度学期<br>学科・年次</td><td colspan="3">2024 年度<br>大学進学科・２年次</td></tr>
<tr><td>単位数</td><td>4 単位</td><td>時間数</td><td>８０</td></tr>
<tr><td>授業形式</td><td colspan="3">講義</td></tr>
<tr><td>授業の概要と方法</td><td colspan="3">法律手続に関する入門講座としての位置付けの下、近畿大学指定の教科書を用いながら、毎回のミニテストや年 2 回程度の裁判員裁判関係のＤＶＤの鑑賞等を織り込んで、現実の裁判に対する理解を深め、法律概念と法律知識の習得を目指す。講師の長年の弁護士経験及び実務と理論の架橋と位置付けられた法科大学院での 10 年の教員経験を活かし、実務に即した授業を行う。</td></tr>
<tr><td>授業の到達目標</td><td colspan="3">⑴　現実の裁判の実像を知り、法律用語や法律概念を理解し、それを説明できるようになる。<br>⑵　リーガルマインド（法的バランス感覚）を養成する。</td></tr>
<tr><td>授業計画</td><td colspan="2">01～10　法と裁判の役割<br>11～14　裁判所制度<br>15～18　法律家の役割<br>19～28　民事裁判の仕組<br>29～30　家事裁判の仕組</td><td>31～32　行政裁判の仕組<br>33～42　刑事裁判の仕組<br>43～44　憲法裁判<br>45～46　裁判を巡る現代的課題<br>47～60　法律文書作成</td></tr>
<tr><td>成績評価の方法</td><td colspan="3">近畿大学における科目終末試験の成績及び普段の授業（ミニテストを含む）における対応によって評価する。</td></tr>
<tr><td>授業外で行うべき学修</td><td colspan="3">日々の裁判関係のニュースをチェックする。<br>ミニテストで分からなかったところを教科書で調べておく。</td></tr>
<tr><td>使用テキスト</td><td colspan="3">近畿大学テキスト「現代の裁判（第７版）」市川正人、酒巻匡、山本和彦（有斐閣アルマ）</td></tr>
<tr><td>参考書（参考資料等）</td><td colspan="3">新聞を毎日読み、法律家（裁判官、弁護士）の回想録（例えば、「無罪を見抜く、裁判官木谷明の生き方」）など何でもよいので、1 冊程度は目にしておくことを勧める。<br>新聞・法律家の書は法的素養を身に付ける上で有益である。</td></tr>
</table>